

温故創新 おおくまの教育

令和元年9月

1 はじめに

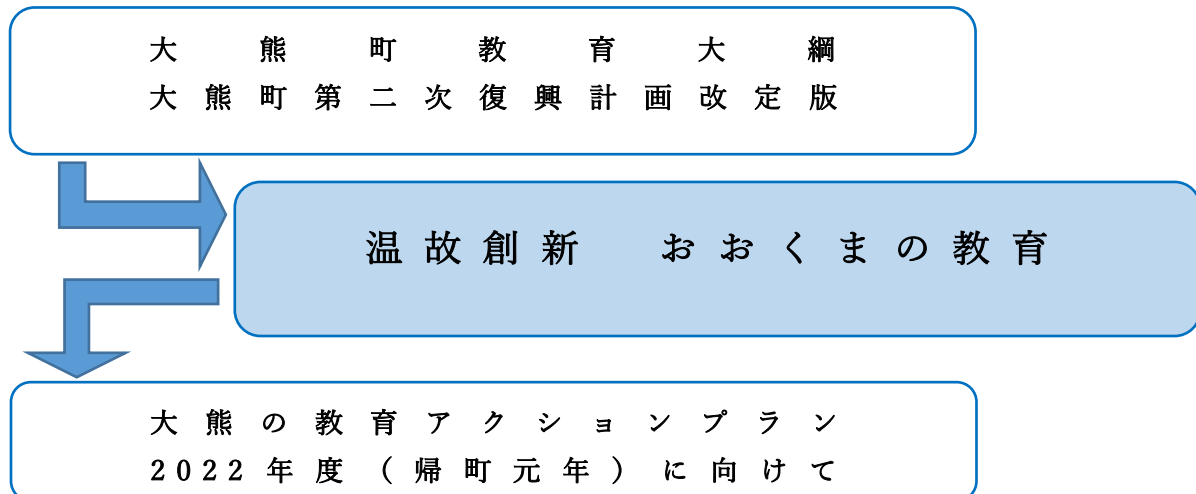
大熊町は、2011年3月の東日本大震災による原子力発電所事故により、全町避難を余儀なくされ、児童生徒数は被災前の1.3%まで減少し、避難先である会津若松市において学校を再開しています。2019年4月に一部の地域の避難指示が解除されるとともに、5月には大川原地区の大熊町役場新庁舎での業務が再開し、2019年6月現在の居住推計703人（町民66人）6.8%にとどまっています。少子高齢化や人口減少（特に、本町では原子力発電所事故による急激な人口減少）が先鋭化する中、町の存続のためにも、帰町や子育て世代の移住を図る上で急務であり、そのための教育の役割は重要となります。

本町では、幼稚園が1施設（熊町幼稚園と大野幼稚園を運営上1つにして再開）、小学校が1施設（熊町小学校と大野小学校を運営上1つにして再開）中学校1施設が、避難先である会津若松市で教育活動を行っています。2017年11月の「大熊町教育大綱」では、2022年4月を目安に大川原地区に、幼稚園、小・中学校を新築し、学校再開をめざすこと、さらに、会津若松市内の幼稚園、小・中学校は当分の間（少なくとも5年間）は継続し、それ以降は保護者と個別に相談することが示されました。また、2019年3月の「大熊町第二次復興計画改訂版」でも、大川原地区に幼小中一貫の教育施設を新たに建設し、2022年春を目途に学校再開を目指すことが示されています。

本町の目指す教育の理念は、「温故創新」（先人に学び、新しい文化を紡ぐ）であり、「『愛と英知と活力』誇りを持って、自分の未来を切り拓いていく」です。教育が、帰町を選択できるとともに、町外からも人が来なくなる環境づくり町づくりへの貢献と考えています。

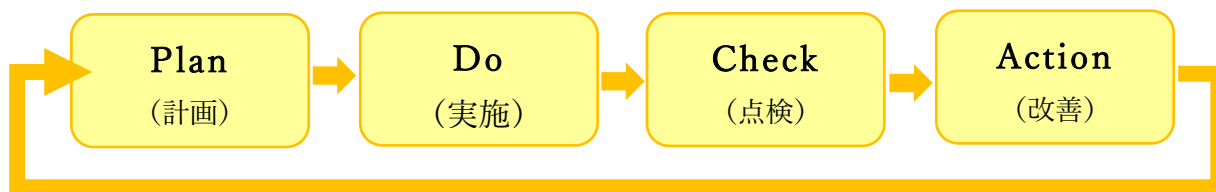
2 おおくまの教育の位置づけ

本町の教育は、大熊町教育大綱に基づいています。大綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3を策定の根拠としています。そこで、大綱と大熊町第二次復興計画改訂版を踏まえ、「温故創新 おおくまの教育」を進めることにしました。



3 期間

「温故創新 おおくまの教育」は、2022年春の特定復興再生拠点区域復興計画に基づく、区域内避難指示解除、同じく大川原での幼小中一貫の教育施設建設、幼小中一貫の教育の実現を目安に、2020年度から2022年度までの3年間の中期的なものとします。また、施策についてPDCAサイクルを実行し、点検や評価を行い、社会情勢、制度改革、教育課題、そして何と云っても大熊町の復興の進捗状況などを見極めながら、対象期間の途中でも必要な見直しを行うとともに、対象期間の延長についても柔軟に考えていきます。



4 基本理念

温故創新

【温故創新】とは、大熊の歴史・伝統・文化・自然を大切にし、ふるさとに誇りを持ち、21世紀のみならず22世紀をリードする大熊の子を育てる教育を創造していくことです。

(先人に学び、新しい文化を紡ぐ)

5 目標

「愛と英知と活力」

～誇りを持って、自分の未来を切り拓いていく～

- ◇ 「愛」(徳)とは、自分自身及び他人の存在価値を認めることである。ふるさと大熊町に生まれたことに感謝し、シビックプライド、礼節、思いやり等を身につけ社会に貢献することです。さらに、和顔愛語(和やかな笑顔と思いやりのある話し方で人と接する)によるコミュニケーションなど、豊かな人間性の基盤となります。
- ◇ 「英知」(知)とは、単なる知識を超えた優れた知恵や深い知性であり研ぎ澄まされた知恵です。自分の夢に向かって生き抜いていくためにそれらを獲得し、自らの可能性を引き出し、未来を切り拓いていく原動力です。
- ◇ 「活力」(体)とは、新しいものを自分から創り出すことであり、現状に満足することなく、常にワンランク上を目指すとともに、新たな価値を生み出していく活動力、生命力です。そのためには、未来を切り拓く精神力、体力を養うことが必要不可欠です。

6 体系

基本目標1 学校教育

本町の学校教育では、教師と子ども・保護者の信頼関係を基盤とします。小規模校のよさは、多くの教師が、一人一人の子どもにきめ細かく対応し、その個性や能力を最大限に引き出すことを大切にしています。大熊町の幼稚園、小学校、中学校の幼児・児童・生徒数は年々減少し、今年度は極小規模校になっていますが、極小規模校を強みととらえ、その強みを生かした教育活動を進め、幅広い知識・教養、柔軟な思考力、自ら新しい価値を創造する能力等を育成します。

- 1 乳幼児から義務教育終了(15歳)までの一貫した教育の推進
- 2 人間関係(人と人とのつながり)づくりの充実
- 3 愛と英知と活力の育成

基本目標2 社会教育

家庭や地域の教育力を高め、学校・家庭・地域それぞれの役割を確認しながら信頼関係を構築し、連携・協働による教育の充実が大切になります。そこで、生涯を通じたスポーツと様々な学びの機会を提供するとともに、社会の中でその成果を活かすことができ、地域の歴史・伝統・文化を育み、継承できる人づくりを進めます。

- 1 家庭の教育力の向上
- 2 スポーツ推進による健康寿命の延伸
- 3 歴史・伝統文化の保護と継承

基本目標3 保育所、幼稚園・小学校・中学校一貫の教育

幼児・児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、保育所、幼稚園・小学校・中学校が一貫し地域コミュニティの核としての役割も踏まえた最先端の教育施設を大川原に建設し、地域が学校を応援・学校が地域に貢献（シビックプライド）を進めます。また、大熊町でしか受けられない魅力ある教育を構想し、幅広い知識・教養と柔軟な思考力や自ら新しい価値を創造したり、他者と協働したりする能力等を育成します。

- 1 地域住民も利用でき、学び直しができる複合施設の建設
- 2 先人に学び、新しい文化を紡ぐ教育の構想

7 具体的な方策

基本目標1 学校教育

- 1 乳幼児から義務教育終了（15歳）までの一貫した教育の推進
 - 15歳で目指す姿を具現するために、保育所、幼稚園・小学校・中学校の校種で育てる子どもの姿を構想し、校種間の様々な連携による取組を強化し、連続性のある教育を進めます。
- 2 人間関係（人と人とのつながり）の充実
 - 子どもの心の状態の把握に努め、一人一人のニーズに応じた支援を行うとともに、養護教諭、SC、SSWrなどを積極的に活用し、子どもや保護者に寄り添い、相談しやすい環境を整えます。
 - 大熊町いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見・対応に努め、いじめを根絶します。
 - 学校と家庭、関係機関との連携を密にし、虐待の未然防止、早期発見・対応に努めるとともに、必要に応じて虐待予防ネットワーク会議を開催し、危機感を持った対応を進めます。
- 3 愛と英知と活力の育成
 - 「読書のまち おおくま」を継承し、音読・暗誦、読み聞かせ、劇化等の多様な活動を行うとともに、社会課題を自ら認識し、その解決に向けて意欲を持って主体的に学習に取り組む態度を育てるために、調べる学習の進化を進めます。
 - 「先人に学び、新しい文化を紡ぐ」ために、放射線教育の充実に加え、ふるさとの歴史、自然、伝統文化（芸能）等を学ぶことで、郷土愛からシビックプライドの実現、そして、地域が学校を応援、学校が地域に貢献する「ふるさと教育」を進めます。
 - グローバル化に対応した英語教育、ICT教育等を幼稚園から系統的に取り組み、実践的な力とともに、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てます。
 - インクルーシブ教育の考え方を踏まえ、特別支援教育の改善・充実を進めます。
 - 肥満対策や生活習慣病の予防などの健康教育に努めるとともに、「ふくしまっ子 児童期運動指針」や各学校の「健康に関する全体計画」に基づく指導の充実にも努め、運動の習慣化を進めます。

基本目標2 社会教育

1 家庭の教育力の向上

- 「教育の原点は家庭にある」との認識の共通理解を図り、家庭教育に関する学びの場や情報の提供等家庭教育を支援する環境を整えるとともに、社会全体で家庭教育を大切にする気運を高めるよう努めます。
- 地域学校協働本部事業の充実に努め、学校と家庭、地域のパートナーシップを密にし、家庭、地域の資源（人材）を活用した体験活動を進めます。

2 スポーツ推進による健康寿命の延伸

- 性別、障がいの有無に関係なく、子どもから大人まで、誰もが日常の生活の中でスポーツに親しむことができる環境を整え、健康な体づくりと心豊かな人格形成に努めます。
- 住民のスポーツ活動の振興を図るため、情報の提供・交換を行い、組織や活動の拠点づくりを図り、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境の整備・充実に努めます。

3 歴史・伝統文化の保護と継承

- 大熊のDNAを残し、新しい文化を紡ぐために、歴史（震災遺構も含む）や伝統文化（芸能）、産業、自然等についての理解を深めて継承・発展させる取り組みを図るとともに、保存環境の整備、啓発活動を進めます。

基本目標3 保育園・幼稚園・小学校・中学校一貫の教育

1 地域住民も利用でき、学び直しができる複合施設の建設

- 子どもを核としながら地域を考えることで、学校づくりと地域づくりを同時に検討し、0歳から100歳までが一緒に使い、学校教育を含む様々な活動ができる施設環境を目指します。
- 子どもの数の変化に対応し、保育所・園・小・中学校として、これからの時代に対応した斬新な教育施設の建設を進めます。

2 先人に学び、新しい文化を紡ぐ教育の構想

- 習得した知識や技能を駆使して問題解決に取り組む過程（知識の習得と探究型学習の循環）で、関連的・総合的に把握する力、思考力、結果を分析・解釈する力等を養う教育を進めます。
- 大熊の教育の強み（図書館教育、ICT教育、プログラミング教育、英語の学習、特別支援教育、帰国子女への対応等）を継承しつつ、大熊ならではの新たな教育の価値（ゼロから生み出す発想のアート力、イノベーションコースト構想につながる理数教育等）を創り出します。
- 0歳から15歳までの子どもに、どのような能力を身に付けさせたいかを明確にし、スコープとシーケンスの観点から、大熊ならではの教育課程を編成します。